

遠藤孝悦 イラスト展

手描きの時代の作業をふりかえる

● 会期 2021年12月14日(火)～26日(日)

10:00～17:00 (12/20 休館)

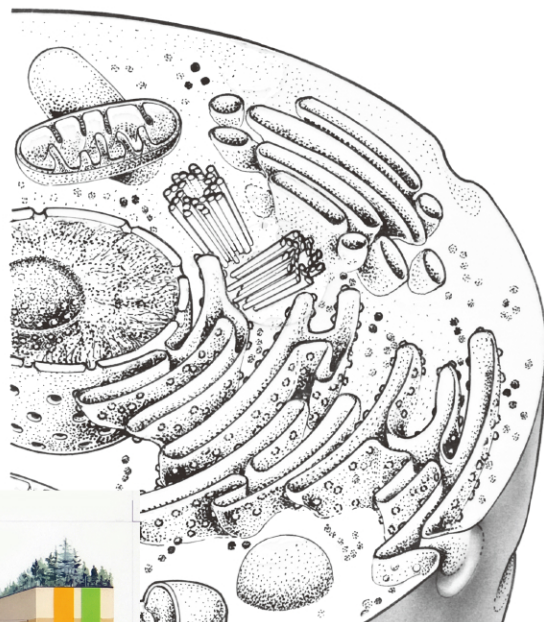
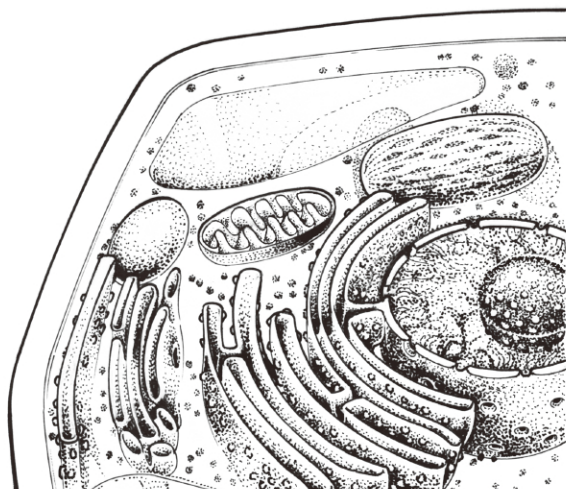
初日13:00より・最終日16:00まで

● 会場 室蘭市民美術館

〒051-0016 室蘭市幸町6-23

TEL. 0143-22-1124

電子顕微鏡で見る
動・植物細胞



示準化石 (手描き)



● 点描の多い手描きの絵です。
光学顕微鏡の絵と比べ、電子顕微鏡の絵はずいぶん見えるものが多い増えました。

● 手描きの絵。

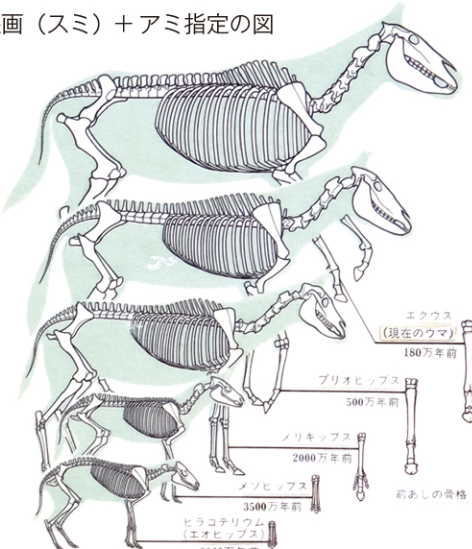
示準化石の図です。はじめに指示原稿を見たときから、楽しそうな絵と思って描きました。エアブラシを多く使い、時間のかかる作業でした。

ウマの進化

● 線画 (スミ) + アミ指定の図

イラストレーター 遠藤孝悦

- 1946 北海道室蘭市生まれ
- 北海道大学在学中に、画家を志し、上京。
- Honda のバイクのマニュアル図、パーツリスト図の制作に携わり、メカニカルな図の作り方を覚える。その後、科学的な図解の領域に進むようになる。
- 科学雑誌「日経サイエンス誌」、「ニュートン誌」のイラストレーションを長期にわたって担当。
- 新興出版社啓林館の「小学理科」、「中学理科」、「高校理科」の教科書の図版を数次にわたって担当。



絶滅したウマのなかまの
クアッガ (データ制作)

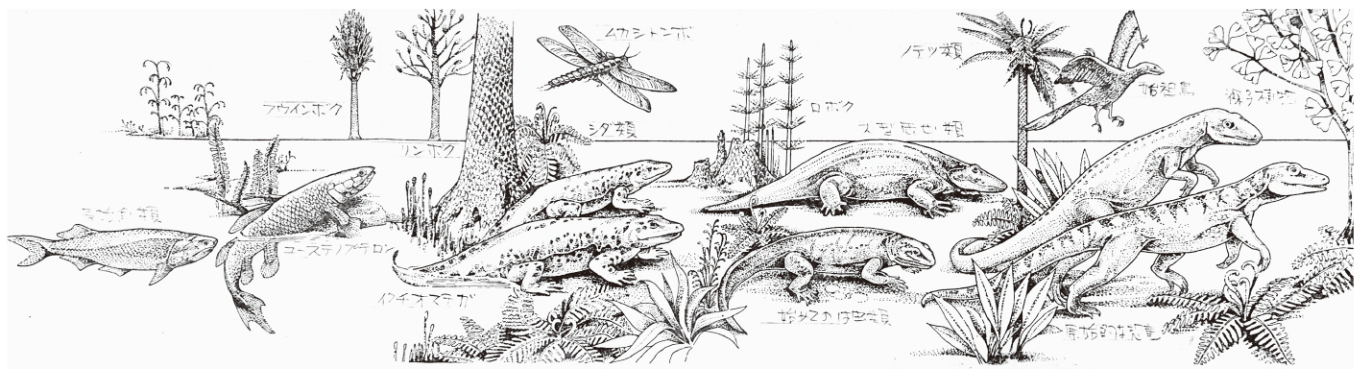
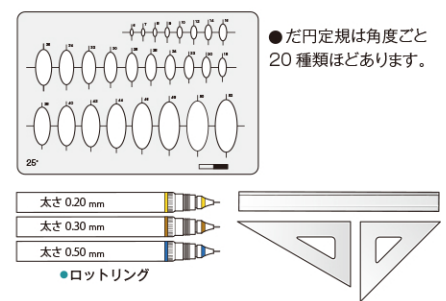
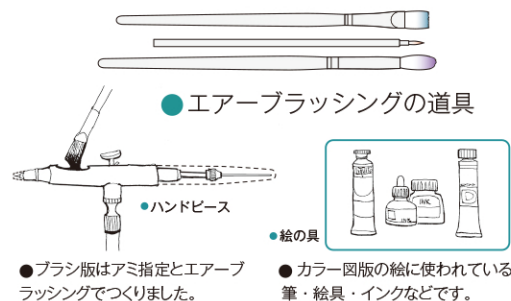
● 剥製の標本から DNA を取り出すことができた絶滅したウマです。 遠藤孝昭 画



●今回残っている原画を展示できたので、パネル上で教科書に印刷されたものと、その原画と、同じような図のデータ制作を比較してみました。（協力：新興出版社啓林館）

手描きのときは文字は写植（写真植字）を切り貼りします。これは編集者、デザイナー、印刷会社などが行いますが、小さい文字を平行、垂直をピタリと決めて貼るのは難しい作業でした。データ化になると文字を含めての制作となりました。

●手描きの作業の道具として、えんぴつ、筆、ペン。なかでも、ロットリングのペンは一定の太さを描くことができ、太さの種類が点描のドットの大きさなのでとても便利でした。他に、直線定規、だ円定規、三角定規などです。紙は厚いトレーシングペーパーを使いました。



●手描きの絵です。仕上げながらチェックを受けた途中の図です。



●進化のパノラマの図ですが、上はデータ制作で、下は手書きです。大きくは印象が変わらないようです。データ化以前の手描きのカラー図版は折り込み、裏表紙など、限られたページに使われました。（孝悦・孝昭 画）



描く時には「絵」ですが、印刷前に、図版番号が割り振られ、「図」として整理されます。